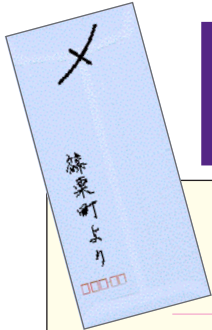


姉妹町からのメッセージ

Messages from sister cities

縁あって姉妹町となった篠栗・江差・テーパーの三町、
北との、南との、海外との発信・受信を通じて、ますます友好を深めます。
そして、お互いに刺激し合いながら、来るべき21世紀へ向かって、力強く前進します。



ささ ぐり ちょう
篠 栗 町
[福岡県糟屋郡]

篠栗町は福岡市から東へ12
キロメートルという位置にあり
ながら、町土の7割を標高600
メートル級の山が連なる緑多きまちです。ま
た、150年の伝統を誇る篠栗四国霊場を持つ、
信仰のふるさとでもあります。 [本文へ続く](#)

篠栗四国霊場は、小豆島新四国(香川県)、知多新四国(愛知県)とともに「日本三大新四国」として、全国に知られています。巡拝者は年間約150万人。第一番札所の南蔵院にある「釈迦涅槃像」は、ブロンズ製の涅槃像としては世界一の大きさ。その全長は41メートル、高さは11メートル。ニューヨークの自由の女神を横にした大きさに匹敵するものです。

弘法大師伝説が残る霊峰「若杉山」(681メートル)山頂の太祖神社の境内には、県天然記念物の二本の杉の巨木がそびえています。1号杉は高さ29メートル、2号杉は30メートルもあります。山頂付近の「奥の院」には、「太っていても善人は通れ、細身でも悪人は通れない」という言い伝えの「はさみ岩」があります。

若杉山と峰つづきの「米の山」(593メートル)の展望

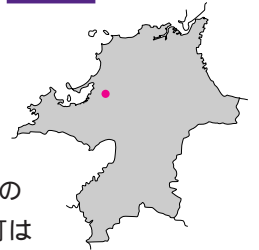


世界一のブロンズ製涅槃像

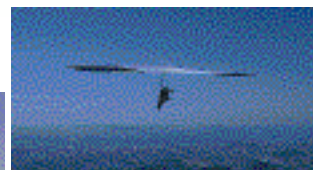
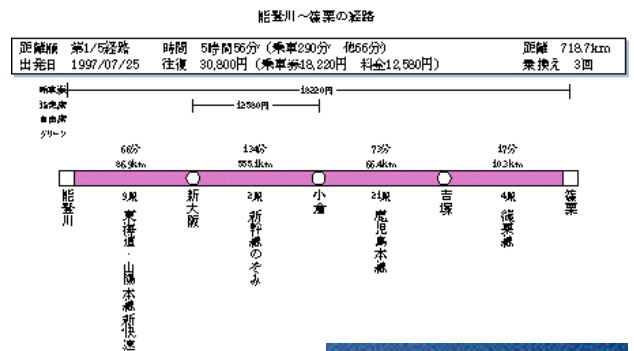
台は福岡都市圏が一望できる絶景。ハングライダー、パラグライダーが飛び立つレジャースポットとしても人気を呼んでいます。

昭和54年(1979)の能登川町との姉妹締結から18年。いま、篠栗町は「きらめく緑・新鮮ふるさと グリーンオアシス・ささぐり」のキャッチフレーズのもと、総合運動公園建設、自然と調和した鳴淵ダム周辺整備、JR九州篠栗線の電化事業など、すべての人に住みよい町づくりに力を入れています。地の利から発展を続け、平成9年(1997)1月現在、篠栗の人口は2万7000人をこえ、年々増加しています。

時代とともに、両町の様相は少しずつ変化していますが、これからも未永く交流が続くことを祈念します。



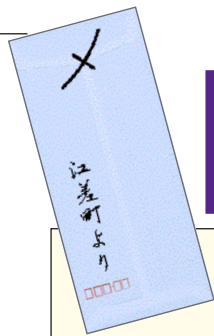
福岡県



米の山展望台から「ソレっ！」



篠栗百万ドルの夜景！



“北海道の里 追分流れる ロマンの町 江差”

え さし ちょう
江差町
ひやま
[北海道檜山郡]

江差町は北海道の南西、日本海に面した海の町です。

その昔、北海道では唯一の城下町であった松前に対し、ここ江差は交易をとおして商都として栄えました。

[本文へ続く](#)

その時代、多くの近江商人が活躍していたことから、昭和59年(1984)から皆さんの町、能登川町と親しく交流を深めてまいりました。『ふるさと百科 能登川てんこもり』発刊に際し、ここで写真を交えながら皆さんに江差を紹介させていただきます。

近江商人が往来した交通機関は「北前船」です。関西から瀬戸内海、関門海峡を通り日本海を北上したこの船は、江差の各寄港地の特産品を運び、文化や芸能を伝えております。中でも日本を代表する民謡「江差追分」は、国内外に多くの愛好者を有し「追分を聴きに」「追分を唄いに」江差を訪れる方々が跡を絶ちません。

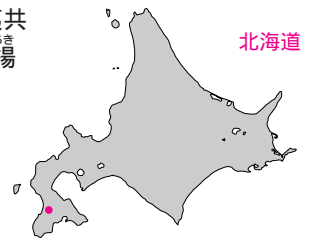
町の古い通りには北前船で沸いた時代を彷彿させる建物が多く、国の重要文化財に指定されている「旧中村家」は滋賀県と当町の縁をいまに伝える遺構の一つです。

このような商都としての歴史とは別に、明治初頭の大

きな事件がありました。蝦夷共和国建国をめざした榎本武揚軍が乗船してきた軍艦開陽丸の江差沖座礁沈没です。

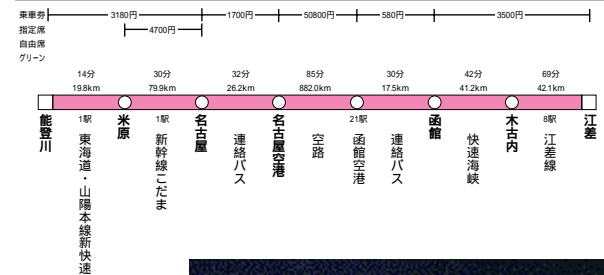
町では、引き揚げた遺物の展示や当時の時代背景を後世に伝えるため、120年の歳月を経た平成2年(1990)に『青少年研修施設開陽丸』として原寸大に復元しました。

有形無形で先人から受け継いだこれらの宝を次代に残すため、また多くの方々に知っていただくため全住民一丸となって頑張っております。機会がありましたらぜひお越しいただき、その姿をご覧くださいと考えております。



能登川～江差の経路

距離順 出発日	第1/5経路 1997/07/25	時間 往復	8時間26分(乗車302分 他204分) 64,460円(乗車券59,760円 料金4,700円)	距離	1108.7km
				乗車券 指定席 自由席 グリーン	乗換え 6回

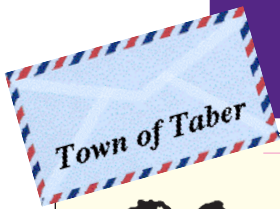


▲軍艦開陽丸 青少年の研修施設として復元。北海道をめざした幕末のロマンをいまに伝えます。

◀江差市街地とかもめ島 江差の歴史は海がもたらしたもの。その昔、左手の「かもめ島」が北前船を守る天然の港となり、江差の繁栄を築きました。

テーバー町

[カナダ国]



テーバー町は、大都市に見られるような立派な公共事業や施設があり、また治安、友情、^{かんたい} 歓待のある町です。

[本文へ続く](#)

テーバー町民は質の高い生活、教育、医療設備を^{きょうじゆ} 享受しています。

北アメリカの他の町からも^{うらや} 羨まれるような低い税金と公共料金、治安の良さ、新鮮な空気と水、さらに手頃な住宅があげられます。

このような特徴や競争力のある小売業種やすばらしいレクリエーションの機会が重なり合うことにより、テーバー町民それぞれが望みにかなった生活を送っています。それゆえ、町民がすばらしい地元に対する精神を持ちえるのでしょう。

テーバー町は、将来におけるビジネスの^{こきやく} 顧客 に対して、

大小にかかわらず用事ができています。

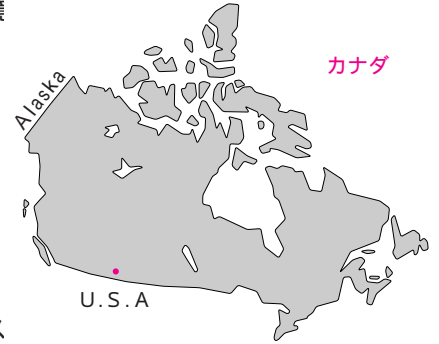
我々の低い税金、質の高いサービスと高い労働意欲を考えると、大企業であるロジャース・シュガー社やホス

テスト・フリト・レイ社がテー

バーこそが我が家だと呼ぶのも^{なっとく} 納得のいくところですよ。

^{かんがい} 灌漑技術やテーバーが南部アルバータ地域に位置するゆえ、食品加工が容易になっており、それが町の経済の原動力の一つとなっています。

テーバーに住んで最高のことは、この町が州の南部に位置するため日照時間が長いということです。テーバーの近隣は^{ほうぶつ} 能登川を彷彿させます。しかし、年によっては能登川より多く雪も降り、冬の気候もより厳しいものといえます。



テーバー町長 ハーリー・フィリップス



テーバー町役場



テーバー名物「広大なさとう大根畑」



夫婦で来町され、園児(ちどり園)の歓迎を受けるハーリー・フィリップス町長夫妻(平成9年2月)。